

第1回 向日市地域福祉計画策定・推進委員会会議録

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 日 時 | 平成 27 年 10 月 14 日（水） 午後 2 時～午後 3 時 45 分 |
| 2 | 場 所 | 向日市役所 大会議室 |
| 3 | 出席者 | 拾井委員長、籠谷副委員長、池田委員、木ノ山委員、佐野委員、高山委員、八木委員、野田委員、植田委員 |
| 4 | 欠席者 | 小田委員、川本委員、川戸委員 |
| 5 | 傍聴者 | なし |

議事（要約）

- 1 あいさつ
- 2 委員長の選任
 - ・向日市地域福祉計画策定・推進委員会設置要綱第 5 条にもとづき互選により、拾井委員が委員長に選任された。
- 3 副委員長の指名
 - ・委員長が委員会の同意を得て副委員長に籠谷委員を指名した。
- 4 会議の公開について
 - ・会議録の要旨作成と公開について、委員会で承認をした。
 - ・会議の傍聴者なし。

5 計画の概要とスケジュール

<事務局から説明>

本日の会議では、社協で実施されたアンケート調査の結果や現計画の進捗状況の説明を行い、ご意見をいただく予定。次期計画の重点項目としては、京都府のガイドラインで示されている重点目標を基本に、本市の地域事情をふまえた計画素案を作成し、本委員会でその都度、委員の皆様からご意見をいただきたい。

今後のスケジュールは、12 月に次回の委員会を開催する予定で準備をすすめている。最終案がまとまり次第パブリックコメントを実施し、市民の皆様からもご意見をいただく予定である。

＜委員からの意見＞

- ・特になし

6 第2次向日市地域福祉計画の進捗状況について

＜事務局から説明＞

計画に掲げた施策ごとに、その取組状況を説明したが、特記すべき事項として、高齢者等の要配慮者に対する災害時の支援体制や高齢者の見守り、児童虐待の防止などが計画策定の上で課題とされていることもあわせて、事務局から説明をおこなった。

＜委員からの意見＞

- ・専門用語や難しい言葉が多く使用されており、補足説明が必要。
- ・障がい者の方の地域活動について、民生委員等に情報が十分伝わらないため、今後、横の連携が必要である。
- ・サロン活動など地域福祉には活動場所が必要。公共施設だけでなく、民有地等も含めて空きスペース等の有効活用について検討していただきたい。
- ・市役所のサービスが十分整っていると思うが、相談も含め利用しやすいような環境づくりが大切。
- ・子どもの貧困対策を地域福祉計画の対象とするのか、又は他計画で扱うのか。
- ・自治会の加入率が年々減少している。未加入の方が増えると災害時の避難対応など、みんなで支え助け合いが必要となることから、今後、加入率を上げていくべきだ。
- ・高齢者の方が外出できる環境づくりが必要であり、もっとバリアフリー化を進めるべきだ。

7 アンケート結果の概要について

＜事務局から説明＞

本年5月に向日市社会福祉協議会が実施されたアンケート調査の調査対象は20歳以上の市民1,000人で、回収数は447票であり、集計結果をもとに地域との関わりや助け合い、福祉への関心など市民の意識・意向について、説明をおこなった。これに対し、次の意見があった。

＜委員からの意見＞

- ・前回のアンケート調査との比較は可能か。資料を提示してほしい。
- ・高齢者など幅広い年代から意見をいただくには、問い合わせ窓口を設け、

アンケートの回答をサポートする体制が必要。

- ・ 地域住民ニーズの把握方法として、アンケート以外の別の方法が必要。
- ・ 委員会での検討には、時間の制約があり、事務局で調査し、資料などを提案し、効率よく進めてほしい。
- ・ 社会福祉協議会の広報紙「ぱれっと」を読んでいる割合が 60%は高いが、若い人たちにも読んでもらえるよう工夫が必要。
- ・ 今後、アンケートの分析ができるよう設問を設定していくべき。
- ・ 地域での活動場所として、空き家の活用も考えられてはどうか。
- ・ 阪急東向日駅にあったスーパーが閉店となり、高齢者の日用品の買い物ができなくて困っているという話を聞いている。
- ・ 居住年数の短い人は自治会の加入率が低いという傾向がみられる。加入を促進するとしても、自治会へ加入したくない理由を分析しておくことが大切。

8 その他

- ・ 第 2 回目の策定委員会は、12 月に開催の予定。